

第 13 回  
全国果樹技術・経営コンクール  
受賞者の概要

主 催 全国果樹技術・経営コンクール実行委員会  
全国農業協同組合中央会  
全国農業協同組合連合会  
日本園芸農業協同組合連合会  
全国果樹研究連合会  
財団法人中央果実生産出荷安定基金協会

後 援 農 林 水 産 省  
日 本 農 業 新 聞

第13回全国果樹技術・経営コンクール 受賞者

○農林水産大臣賞

岩手県	井上 美津男
静岡県	片平 茂二
愛知県	加藤 尚男、加藤 富久美
沖縄県	沖縄県農業協同組合豊見城支店マンゴー共選部会

○農林水産省生産局長賞

青森県	石井 岩男、石井 成子
山形県	南果連協同組合大粒葡萄部
山梨県	神戸 政一
長野県	須高農業協同組合 果実専門委員会ぶどう部会
香川県	小野 和則
愛媛県	青井 幹夫、青井 和子

○全国農業協同組合中央会会長賞

山梨県	巨摩野農業協同組合果実部李生産委員会
鳥取県	片桐 肇

○全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

長崎県	志方 和浩、志方 秀子
大分県	べっぷ日出農協ギンナン部会

○日本園芸農業協同組合連合会会長賞

和歌山県	JA紀の里キウイフルーツ部会
宮崎県	高千穂地区農業協同組合クリ部会

○全国果樹研究連合会会長賞

北海道	土井 元
-----	------

○(財)中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

大阪府	草尾 家保
-----	-------

## はじめに

全国果樹技術・経営コンクール実行委員会  
委員長 吉 國 隆

当コンクールは、平成11年度から、生産技術や経営方式等において他の模範となる先進的な農業者、生産団体等を表彰し、その成果を広く紹介することにより、我が国果樹農業の発展に資することを目的として発足したものであります。

近年の果樹農業を取り巻く環境には誠に厳しいものがあり、高齢化の進展や後継者不足、耕作放棄地の増加等による生産基盤の脆弱化などさまざまな問題に直面しております。このような状況に対応し、新しい果樹農業振興基本方針の下、消費者ニーズに沿った品目・品種への転換、その後発生する未収益期間の支援、新たな加工需要の開発等果樹農家の経営安定と産地の活性化のための幅広い支援策が実施されるとともに、食育と一体となった「毎日くだもの200グラム運動」など果実の消費拡大対策が進められております。

このような施策が所期の成果をあげるためには、関係者の主体的活動、とりわけ、産地の自助努力が必要かつ不可欠であり、産地振興の中核的役割を担っている方々の活動が最も重要であります。

このため、技術・経営のモデルとして受賞者の成果を広く普及するとともに、先進的な取り組みを実践している産地・生産者を励まし、施策の具体的な推進の中核的役割を担っていただくという視点から実施される当コンクールは、大変意義あるものと考えております。

第13回コンクールの受賞者の技術・経営の概要は以下に取りまとめられておりであります。いずれも、各地域において困難な諸条件を克服しつつ、独自の創意工夫や最新の知見の活用、計画的・効果的な投資、集団・地域の合意形成等主体的、積極的な実践によって、高い水準の技術・経営を身をもって達成し、他の模範となる方々であります。

受賞者の皆様には、長年にわたるご努力、ご研鑽に対し深く敬意を表し、心からのお祝いを申し上げますとともに、受賞を契機に、今後とも地域更には全国の果樹農業の中核的な先導者として一層ご活躍されるよう期待する次第であります。

終わりに、ご指導・ご協力を賜りました農林水産省をはじめ関係機関・団体の皆様、厳正な審査に当たられた審査委員の方々に対し、深甚の感謝を申し上げますとともに、引き続き本事業が多くの方々の果樹農業者の啓発や士気・意欲の高揚、更には我が国果樹農業の新たな発展に資する意義深いものとなるよう、今後ますますのご支援をお願い申し上げます。

## 農林水産大臣賞

- 岩手県 <sup>いわてぐんたきざわむら</sup> 岩手郡滝沢村 (りんご)  
<sup>いのうえ</sup> 井上 <sup>みつお</sup> 美津男

経営面積は、りんご 214 a で、水稻その他 56 a を栽培している。

経営面では、贈答用を中心に系統販売・産直施設での販売をしていることから、収穫期間を長くし、消費者嗜好に合わせるため、多品種のりんごを栽培するとともに、新品種の早期結実を図るため、大苗移植にも取り組んでいる。

技術面では、独自の低樹高化栽培技術を確立し、着色管理、薬剤散布及び収穫作業等の軽減化を図り、全労働時間を県指標の 77% まで短縮している。

また、授粉の効率化、低コスト化のため、病気や寒さに強い「日本ミツバチ」の増殖に成功し、地域全体 36 h a の授粉を「日本ミツバチ」でカバーしている。

さらに、交信攪乱剤を利用した環境保全型農業にも率先して取り組み、産直施設の組合員全員で「エコファーマー」を取得している。

地域にあつては、県農業農村指導士や県果樹協会の技術アドバイザーとして、低樹高化せん定技術や「日本ミツバチ」の飼育方法を若手果樹栽培者等へ継承する活動を行っている。

- 静岡県 <sup>しずおかし</sup> 静岡市 (かんきつ)  
<sup>かたひら</sup> 片平 <sup>しげじ</sup> 茂二

経営面積は、かんきつ 420 a で、その他たけのこ 100 a を栽培している。

経営面では、商品性や販売単価の高い「青島温州」を 355 a、市場評価の高い「はるみ」65 a を露地栽培している。また、基盤整備農地の借地により面積規模の拡大を図るとともに、冷風機器を敷設した貯蔵庫施設の増設により「青島温州」の長期出荷を実現している。

技術面では、栽培管理については、スプリンクラーの敷設、低樹高化、急傾斜地へのモノレールの設置等により作業の効率化・軽労働化を図っている。また、貯蔵・出荷については、貯蔵庫の増設とフォークリフト利用可能なパレット貯蔵管理によって、貯蔵・出荷の合理化を行っている。

さらに、防除、施肥、摘果等の基本管理の徹底により、連年高い L・M 玉の出荷比率を確保するとともに、園地毎に生産履歴を記帳し、安全・安心な生産に取り組んでいる。

地域にあつては、氏自ら借地による大規模経営の先駆的モデル農家の模範となるとともに、大玉青島の商品化や 3 月出荷の厳選化を牽引している。

○ 愛知県 <sup>とよはしし</sup>豊橋市 (ぶどう)  
<sup>かとう</sup>加藤 <sup>たかお</sup>尚男、<sup>かとう</sup>加藤 <sup>ふくみ</sup>富久美

経営面積は、「巨峰」を中心に露地 70 a、ハウス 80 a のぶどう計 150 a と柿 20 a の果樹計 170 a、その他、水田 60 a、普通畑 20 a を栽培している。

経営面では、基幹品種「巨峰」のハウス栽培と露地栽培を効果的に組み合わせている。ハウスでは被覆枚数と被覆時期を変えることで生育及び収穫期を分散している。また、露地では標高の異なる園地の気温差による生育時期のずれを利用することで作業適期をずらし、労力分散を図っている。このことにより夫婦中心で地域平均栽培面積の 2 倍以上の大規模ぶどう経営を実現している。

技術面では、「巨峰」の自然形整枝から改植せずに平行整枝に樹形改造する技術をいち早く導入し、従前の収量を確保しつつ、管理・収穫作業時間を 2 割短縮している。また、複数年利用できるポリエチレンフィルムのハウス利用により、コストと労力及び使用済農業用プラスチックの排出量を 1/3～1/2 に削減するなど、環境に配慮した果実づくりを行っている。

地域にあっては、JA 巨峰部会長を歴任し、省力化技術等の積極的な紹介、出荷調整作業の負担軽減など、ぶどう産地の発展に尽力している。

○ 沖縄県 <sup>とみぐすくし</sup>豊見城市 (マンゴー)  
沖縄県農業協同組合 <sup>とみぐすく</sup>豊見城支店マンゴー共選部会  
(代表 <sup>あかみねゆうすけ</sup>赤嶺雄介)

部会員 82 戸、栽培面積 18 h a、出荷額 2 億 9 千万円超の共選部会である。

経営面では、出荷予定数量や防除日誌の提出を会員に義務付けるとともに、大学と共同開発したハンディタイプの糖度センサーを活用することで品質の統一と出荷の安定を図り、「定時・定量・定品質」の安定出荷体制を確立している。こうした取組で、6 割を占める市場出荷では、予約相対販売の拡大による有利販売を実現し、また、カタログ販売や量販店、ファーマーズマーケット等の産直販売でも、価格の安定につなげている。

技術面では、収穫時期の異なる「アーウィン種」と「キーツ種」の栽培を組合わせて出荷期間を拡大するとともに、台風被害防止施設として全ハウスの 9 割に鉄骨ハウスを導入している。また、加温機の活用により着果を安定させ、高品質化を図るとともに、台風時期と集荷時期が重ならない取組を行っている。

こうした取組により、県農林漁業賞を受賞するとともに、県マンゴーコンテストで多数の受賞者を輩出するなど県内でマンゴー産地形成のモデルとして位置づけられている。さらに、市と JA が協力して「マンゴーの里・豊見城」を宣言する中、加工特産品の開発などにより 6 次産業化にも貢献している。

## 農林水産省生産局長賞

- 青森県 <sup>さんのへぐんなんぶちよう</sup> 三戸郡南部町 (ぶどう)  
<sup>いしい</sup> 石井 <sup>いわお</sup> 岩男、<sup>いしい</sup> 石井 <sup>なりこ</sup> 成子

経営面積は、施設ぶどう 135 a で、その他、露地ネギ 50 a、施設野菜 20 a を栽培している。

経営面では、「自然災害に負けない農業」を目指し、ぶどうは全てハウス栽培で、品種は「キャンベルアーリー」と大粒の着色系品種「ルビー・オクヤマ」「イタリア」などを栽培している。販売先は、市場出荷のほか首都圏の高級果物店、直売所、宅配など多彩な販売を夫婦と長男夫婦 4 人の協力で展開している。

技術面では、楽な姿勢で作業ができ、体に優しい仕立て方である「ウォークマン仕立て」をさらに改良した結束テープ方式により作業性を向上させるとともに、10 年目で樹間に苗を植え、15 年目で完全に更新する早い更新で、収量と品質を維持している。

地域にあっては、ウォークマン仕立ての普及拡大に尽力するとともに、大粒種の普及拡大にも貢献し、県内ぶどう生産者の技術的、精神的支えとして中心的な役割を担っている。

- 山形県 <sup>かみのやまし</sup> 上山市 (ぶどう)  
<sup>なんかれん</sup> 南果連 <sup>おおつぶぶどうぶ</sup> 協同組合大粒葡萄部  
(代表者 <sup>なかじましんいち</sup> 中島伸一)

ぶどう生産農家の自主的な販売活動や技術確立を進める出荷団体の部会で、全部会員 38 戸が主力品種の「ピオーネ」を栽培しており、面積は 14ha、出荷額は 1 億円を超えている。

経営面では、県の出荷規格より厳しい等級規格を設定し、検査を徹底して市場の信頼を得、「南果連ブランド」として高単価を維持している。

技術面では、管理作業が容易で作業効率が高く、果粒肥大に優れた短梢せん定栽培を導入し、規模拡大を可能にしている。また、低コストでジベレリン処理を安定させる「改良簡易雨よけ施設」を導入し、高品質安定生産につなげている。さらに、「ピオーネ」「シャインマスカット」をはじめ消費者・市場の需要に応じた品種を積極的に導入するとともに、全部会員が「エコファーマー」を取得して、食の安全・安心に取り組んでいる。

こうした取組により、高単価販売とコスト低減による規模拡大で安定した所得を確保し、若い後継者の確保・増加につながっている。また、確立した技術は広く公開し、県内のぶどうの生産振興に大きく貢献している。

○ 山梨県 <sup>やまなしし</sup>山梨市 (ぶどう)  
<sup>こうべ</sup>神戸 <sup>せいいち</sup>政一

経営面積は、施設 23 a、露地 65 a、計 88 a のぶどう専作経営である。

経営面では、収益性と労力配分のバランスを考慮し、施設栽培を柱に露地栽培を組み合わせ、また、作業効率と収穫時期の分散・省力化を図るため、多数の品種を組み合わせ、工夫している。

技術面では、県で開発した「超早期加温栽培」を導入し、4月に大玉の高品質高単価の「ピオーネ」を出荷し、また、「緑枝接ぎ一挙更新」により、消費者ニーズに合った品種への早期切り替え、未収益期間の縮小、さらに、「ハウスコザリオビアンコ」の新梢誘引時摘心により安定多収を実現している。

また、「エコファーマー」を取得し、減農薬・減化学肥料の環境保全型農業にも積極的に取り組んでいる。

地域にあっては、市農業委員やJA支所ぶどう部長などを務め、新品種の「シャインマスカット」の普及や大房系ぶどうの着色対策などの技術的指導に取り組むとともに、「超早期加温栽培」に取り組む後継者の育成に努めている。

○ 長野県 <sup>すざかし</sup>須坂市 (ぶどう)  
<sup>すこう</sup>須高農業協同組合果実専門委員会ぶどう部会  
(代表者 <sup>さかい</sup>境 <sup>えいたろう</sup>榮太郎)

全国でも有数のぶどう産地の系統部会組織で、部会員 1,034 名、栽培面積 499 h a、出荷額約 26 億円である。

経営面では、「供給責任と大口ロット供給」を目標に部会と農協が連携して事業展開し、また、ブランド力向上に向けて厳しい出荷基準の「大地のしずく—JA須高最高品質基準—」を立ち上げるなど、継続取引を目指す顧客確保への取組みに努めている。

技術面は、「消費いただける」品質確保と均一化した商品の出荷を目標に、先進技術「にぎり房」の技術習得に力を入れるとともに、巨峰を基幹品種としながら、作型ごとの栽培技術を確立し、長期販売に向けた取組みをしている。

また、「種なしぶどう」への消費者ニーズの拡大に伴い、「皮ごと食べられる」品種である「ナガノパープル」「シャインマスカット」の積極的な導入を行い、このためのせん定講習会、栽培講習会及び出荷査定会を実施している。さらに、生産工程管理(GAP)の導入、栽培履歴の点検及び残留農薬の自主検査など、食の安全・安心に積極的に取り組んでいる。

○ 香川県 <sup>あやうたぐんあやがわちよう</sup>綾歌郡綾川町 (ぶどう)  
<sup>おの</sup>小野 <sup>かずのり</sup>和則

経営面積は、施設ぶどう 60 a、簡易被覆ぶどう 30 a、計 90 a のぶどう専作経営である。

経営面では、消費者にぶどうの美しさを伝えることを目的に、黒、緑、赤の 3 色セット販売に取り組んでいる。また、長期間、彩りのあるぶどう販売を行うため、早生から晩生種の品種構成と異なる作型により労力分散と長期安定出荷が可能となる 13 品種のぶどうを厳選して栽培している。

出荷・販売は、農協による市場出荷を基本に、直販、産直施設、大型ショッピングセンターでの直接販売など多岐にわたり、販売チャンネルの多様化により経営の安定を図っている。

技術面では、新短梢方式を採用して作業の軽労化を図るほか、新品種の「シャインマスカット」をいち早く導入し、ジベレリン処理や房整形などの技術確立により全国市場でトップクラスの評価を得るなど、県産の「シャインマスカット」の知名度向上に貢献するとともに、地域の模範となっている。

○ 愛媛県 <sup>まつやまし</sup>松山市 (かんきつ)  
<sup>あおい</sup>青井 <sup>みきお</sup>幹夫、<sup>あおい</sup>青井 <sup>かずこ</sup>和子

経営面積は、「宮内伊予柑」210 a を主体の露地栽培 321 a と「不知火」や「せとか」などの施設栽培 62 a、計 383 a の大規模かんきつ専作経営である。

経営面では、大規模面積のためスプリンクラー防除・かん水施設や園内道路整備の省力化を図るとともに、4、5 月の出荷品種の「南津海」を増反し労力分散を図っている。さらに、経営の柱である宮内伊予柑は、J A ブランドの「蔵出し伊予柑」、「弥生紅」、「伊予柑道後物語」に取り組み、J A 平均の 1.5 倍の単価を実現している。また、施設栽培においても、消費動向を先読みし、その時代に合った品種に更新し、現在、「不知火」、「せとか」、「紅まどんな」のほか、県の期待品種の「甘平」を導入し、12 月から 5 月までの出荷と労力分散を図っている。

技術面では、「不知火」の作業効率や品質の安定化に優れた「垣根仕立て」栽培を成功させ、また、未収益期間の短縮のため大苗での品種更新を行っている。

また、品種・作型毎に生産履歴台帳の記帳を徹底し、J G A P を実践するなど食の安全・安心に積極的に取り組んでいる。

地域にあっては、県農業指導士に認定されたほか、農業団体のリーダーとして地域農業の支援に尽力している。



## 全国農業協同組合中央会会長賞

- 山梨県 南アルプス市 (すもも)  
巨摩野農業協同組合果実部<sup>すもも</sup>李生産委員会  
(代表者：塩谷<sup>えんや</sup> 久<sup>ひさし</sup>)

すもも栽培面積 330 h a、戸数 1,305 戸、出荷額約 8 億 5 千万円の J A 生産部会の委員会である。

経営面では、生産・技術指導や市場へ出荷予測等の情報提供を行っているほか、品種構成の改善による出荷期間の長期化を図るとともに、選果基準の統一を徹底し、さらに、「県特選農産物認証制度」を活用し、産地ブランド化を図っている。

技術面では、南アルプス市を代表するオリジナルブランド品種である「貴陽」を導入するとともに、県オリジナル品種である「サマービュート」「サマーエンジェル」の導入にも積極的に取り組んでいる。

また、有機割合の高い J A 独自のエコ肥料を使用するなどすもも栽培者 289 名が「エコファーマー」を取得し、環境に優しい栽培技術の徹底を図っている。

地域にあっては、高い生産技術と知識を持った農家が、「完熟フルーツマスター」として商工会に認定されるなど、農商工連携の強化と地域の 6 次産業化に貢献している。

- 鳥取県 西伯郡大山町 (なし)  
片桐<sup>かたぎり</sup> 肇<sup>はじめ</sup>

経営面積は、なし 100 a で、その他水田 35 a 及び普通畑 10 a を栽培している。

経営面では、特産「二十世紀」から県のオリジナル品種「なつひめ」「新甘泉」などの新品種や、作期が異なり、小袋掛けの不要な赤梨の品種を導入し、管理・収穫作業の分散化と省力化を図るとともに、網掛け施設やかん水施設を導入して省力化と適期かん水により高品質果実の安定生産を図っている。

技術面では、整枝せん定技術の徹底、有機物、パーライトの積極的導入による土作り、根作りの徹底、元肥を冬期と春期に分けた施肥方法、夏期誘引の新梢管理、適期収穫等により、若木の早期多収、安定生産、高糖度で高品質の梨作りを実践している。

地域にあっては、新品種圃場を展示圃場として公開し、基本的な栽培管理法の実証を行うとともに、指導組織のリーダーとして、大山管内だけでなく県西部地区広域にわたり、生産者の梨栽培技術向上を牽引している。

## 全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

- 長崎県 <sup>きせほし</sup>佐世保市 (みかん、もも)  
<sup>しかた</sup>志方 <sup>かずひろ</sup>和浩、<sup>しかた</sup>志方 <sup>ひでこ</sup>秀子

経営面積は、温州みかん 320 a、ハウスもも 20 a、果樹計 340 a で、その他  
水稻 90 a を栽培している。

経営面では、近隣園地を借り入れ規模拡大を図るとともに、みかんと労力競  
合せず、短期間で収益が上げられるハウスももを導入して経営のリスク分散を  
図っている。さらに、スピードスプレーヤー、フォークリフト、高所作業車等  
を導入し、省力化を図るとともに、地域雇用を有効に活用して合理的安定的な  
家族経営を実現している。

技術面では、みかんは間伐による樹冠拡大と日当たり改善、シートマルチ被  
覆、フィガロン乳剤等により品質向上を図り、ブランドみかん「味っ子」「味ま  
る」として販売している。また、ももは反射シートによる着色向上、土壌の水  
切りによる糖度向上を図っている。

地域にあっては、JAかんきつ部会をリードし、部会員全員が「エコファー  
マー」を取得し、県版GAPを実践するなど安全・安心で高品質な果実生産を  
牽引している。

- 大分県 <sup>はやみぐんひじまち</sup>速見郡日出町 (ギンナン)  
<sup>ひじ</sup>べっぷ日出農協ギンナン部会  
(代表者 <sup>うえのてるひこ</sup>上野輝彦)

ギンナン栽培面積 24 h a、部会員 42 名の部会で、出荷額約 24 百万円である。

経営面では、ギンナン専用の共同選果機を導入し、労働時間と生産コストを  
大幅に削減するとともに、部会全体で取り決めた厳正な選果工程により、規格  
と品質の統一を図っている。

また、「早だしギンナン」「むき身ギンナン」「レンジ袋入りギンナン」といっ  
た新しい商品を展開し、一般のギンナンとの差別化を図るとともに、県農産物  
認証制度である「e-na おおいた」の認証を取得し、安全・安心な商品として付  
加価値を高めている。

技術面では、幼木時の早い段階で開心自然形に樹形改良、高接ぎによる大玉  
系品種への品種更新、昆虫寄生性糸状菌等の新防除資材導入による病害虫対策、  
間伐と縮伐による受光改善など適切な栽培管理に取り組んでいる。

こうした取組により、ギンナンが地域イメージを代表する農産物として定着  
している。

## 日本園芸農業協同組合連合会会長賞

- 和歌山県 <sup>きのかわし</sup>紀の川市 (キウイフルーツ)  
JA <sup>きのさと</sup>紀の里 キウイフルーツ部会  
(代表者 <sup>ふるたにしろう</sup>風呂谷史郎)

キウイフルーツの栽培面積 44h a、会員 278 戸の部会で、出荷額は約 5 億円である。

経営面では、全園地調査と糖度調査に基づき区分して貯蔵し、「おいしい食べ頃のキウイを消費者に」を合い言葉に、全て追熟処理して糖度の品位別出荷をしている。また、防除日誌や栽培日誌等の生産履歴の 100%回収など安全・安心の確保に努めるとともに GAP にも取り組んでいる。

技術面では、有機率の高いキウイ専用肥料を部会で統一使用し、貯蔵性や食味の向上、大玉化に取り組むとともに、溶液授粉の採用で作業能率と品質の向上を図り、会員の栽培技術向上の平準化と収入の安定を実現している。

こうした取組により、減少していた栽培面積が増加に転じるとともに、JA 内の他の品目の一元出荷販売体制の確立を牽引している。

- 宮崎県 <sup>にしうすきぐんたかちほちよう</sup>西臼杵郡高千穂町 (くり)  
<sup>たかちほ</sup>高千穂地区農業協同組合 クリ部会  
(代表者 <sup>ばききひであき</sup>馬崎英明)

くりの栽培面積 275h a、会員 280 戸の部会で、出荷額 80 百万円超である。

経営面では、地域資源の鶏糞燃焼灰の活用による低コスト化や有機質資材投入による土づくりに力を入れるとともに、2 時間の分析時間で 386 種類の農薬を一斉に分析する「宮崎方式」残留農薬分析システムの活用と生産履歴の記帳・提出により、安全・安心なくり出荷を実践している。

技術面では、くり収穫ネット活用による収穫時間の短縮、家庭選別と光センサー選果機を組み合わせた検品と外観・階級選別による高品質出荷体制の実現、園地維持や高品質大玉果生産のため、町の果樹栽培受託組合であるくりせん定班の活用と低樹高せん定など、部会生産者の高齢化に対応した作業の省力化と選果選別の徹底、高品質化の取組みを行っている。

こうした取組により、みやざきブランド「みやざきびっ栗」として、県内産地をリードしている。

## 全国果樹研究連合会会長賞

- 北海道 余市町 (おうとう、プルーン、ブルーベリー、りんご)  
土井 元

経営面積は、おうとう 160 a、プルーン 150 a、ブルーベリー40 a、りんご 30 a、ぶどうその他 20 a、計 400 a の大規模果樹専業経営である。

経営面では、りんごからおうとう、プルーンを主体として、消費者から人気のある果樹や健康食品志向の高いブルーベリーも含めた樹種を導入するとともに、観光果樹園としてもぎ取りを導入して、収穫労力の軽減、消費動向や時代の流れに合った経営を早くから実施している。

技術面では、良品質・安定生産への取り組みとして、おうとうは優良品種で100%の雨よけ施設を導入、また、プルーンは樹形仕立てや新梢管理などの工夫、ブルーベリーはバークチップ全面マルチや植栽間隔を設け、受光性や作業性を改善している。

地域にあっては、JA りんご生産組合クリーン班の初代会長として道独自のクリーン農業認証制度「北のクリーン農産物表示制度」にいち早く取り組み、クリーン農業生産の先駆者リーダーとして貢献している。

## (財) 中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

- 大阪府 富田林市 (みかん・くり)  
草尾 家保

経営面積は、温州みかん 102 a、くり 40 a、果樹合計 142 a で、その他水田 28 a、普通畑 30 a を栽培している。

経営面では、昭和 48 年から始めた観光農園の更なる発展を目指し、みかん狩り用に最も食味の良い早生品種をいち早く導入するとともに、バーベキュー等の付帯施設を増設し、子どもとのコミュニケーションを積極的に行い、幅広い集客とリピーターの確保に努めている。

技術面では、摘果剤とマシン油乳剤との混用により摘果及び成熟促進の両方に有効となる技術を確立し、また、多目的スプリンクラーの活用により防除作業の大幅な省力化を実現している。また、独自の土づくりやせん定技術、液肥による樹勢回復等により隔年結果を防いでいる。

地域にあっては、早生品種の導入や摘果の省力化と成熟促進効果を図る技術は、地域のみかん農家の模範となっている。